

平成 24 年度採択 申請区分 I ⑦ 九州大学（早稲田大学）

「地球資源工学グローバル人材養成のための学部・大学院ビルドアップ協働教育プログラム」

●相手大学・機関

チュラロンコン大学（タイ）、バンドン工科大学（インドネシア）、ガジャマダ大学（インドネシア）、フィリピン大学（フィリピン）、マレーシア科学大学（マレーシア）、ホーチミン市工科大学（ベトナム）、カンボジア工科大学（カンボジア）

●主な活動内容（概要）

地球資源工学分野で、質保証を伴う3つの学部・大学院積上式ビルドアップ協働教育プログラムを九州大学及び早稲田大学と海外の連携大学とともに共同開発し実施する。実践経験を積む「国際インターンシップ」、相互学生交流を強化する「スクールオンザムーブ」、高度研究者・技術者リーダーを養成するための「大学院ダブルディグリー」を実施することで日本とASEANの将来を支える地球資源工学グローバル人材養成を目指している。

●プログラムの現状・課題、成功事例

（単位互換、危機管理、寮・奨学金、その他プログラムをつくる上での障害等）

現状・課題

平成 26 年度はサマースクールをインドネシアで、スクールオンザムーブをフィリピン、インドネシア、北海道（日本）、カンボジアで行い、約 140 人（延人数）が参加した。ASEAN 諸国との修学時期の相違により、スクールオンザムーブを1回の活動で全行程を周るまとまった日程的余裕はないため、複数回に分割するなどの工夫を行っているが、財政的負担が大きい。単位互換については、諸事情により対応せざるを得ない大学もありひきつづき改良を推進したい。26 年度後期よりダブルディグリーがバンドン工科大学との間で開始された。しかしながら、他の ASEAN コア大学とのダブルディグリーは修学時期や単位内容の相違から調整を行い合意するまでに時間を要している。

成功事例

26 年度後期よりダブルディグリーが本格的に稼働し、バンドン工科大学より1名、受け入れた。27 年度には九州大学より派遣を予定している。サマースクールは今年度、インドネシアで開催したが、それに伴う海外インターンシップを上手くその前後に配置することにより、効率的なプログラムの遂行につながった。スクールオンザムーブ開催大学間で科目の調整を行った結果、参加学生が日頃受講・習得できない分野の講義やフィールド視察を実施でき、学生から評価を得ている。また、英語によるコミュニケーション、異文化の理解など海外学生との交流により、日本・ASEAN の学生達の自己啓発へのきっかけとなっている。

●学生交流数

	平成 23 年度		平成 24 年度		平成 25 年度		平成 26 年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)
受 入	—	—	25	22	30	30	48	29
派 遣	—	—	40	37	60	50	62	56

(※) 予定含む